

『緑筠軒詩鈔』自筆稿本

東北随一の漢詩の大家と言われた大須賀^{いんげん}筠軒(1841~1912)の集大成が『緑筠軒詩鈔』です。筠軒の10代から晩年までの漢詩1250首を収録しています。全10巻から構成されており、刊行時は3冊にまとめられました。当館では、大須賀筠軒自筆稿本の巻2から巻10を所蔵しています。和綴じて大きさは28.0×17.8cm、原稿用紙に筆書きで、筠軒の手による推敲や塗抹の跡、原稿用紙を重ねての書入れなどが見られます。各巻ごとに当時の著名な学者の序文や跋の原稿も綴じられています。

大須賀筠軒は天保12(1841)年12月24日に磐城平藩の儒学者・神林復所三男として生まれました。幼名英三郎、名を履、字は子泰、号を柳所、鷗渚迂漁、米癖、舟門、筠軒。大須賀家に婿入りしてからは、養父の次郎左衛門の名を襲名し次郎となります。

8歳になった筠軒は藩校施政堂に入学。安政6(1859)年、19歳で江戸へ出て昌平坂学問所の大学頭である林復斎の門に入ります。学僕などをしながら、経学を安積良斎、文章を塩野宕陰に学びました。巻1の「切灰残稿」は、安政4(1857)年から戊辰戦争までの詩です。

文久2(1862)年に平藩主安藤信正が襲われる坂下門外の変をうけて、帰藩すると藩校施政堂の世話役頭取となります。坂下門外の変の追罰によって平藩は減封され、藩士を減らそうと計画し、筠軒は帰農策を建議しますが受け入れられませんでした。元治元(1864)年に士籍を脱して舟門(現在のいわき市久之浜町田之網舟門)にある大須賀家に入婿し、大須賀家の家業である漁業や水産加工業などを経営しました。巻2の「舟門漁唱」は舟門で漁業などをしていた頃の作です。

戊辰戦争後は佑賢堂と改称した藩校で講師を務め、明治8(1875)年7月に磐前県第四番中学校教師、9月には免じられて磐前県地誌編輯掛となりました。明治12年、初代の行方・宇多郡長を命じられ、中村町(現在の相馬市)に赴任し、「書画郡長」と呼ばれました。巻3の「冷漿餘韻」は郡長時代の作です。

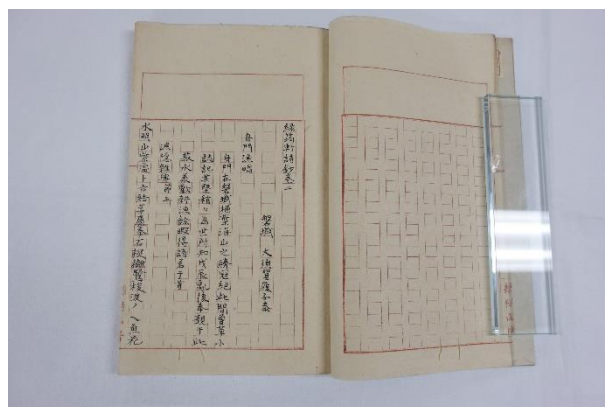
しかし、明治15(1882)年に三島通庸が福島県令になると、三島と意見が合わなかった筠軒は、郡長職を辞して平に戻り、しばらく東北を歴遊して、書画の謝金で生活していきます。巻4と5の「東北遊草」は郡長職を辞してからの東北歴遊時代の作です。巻6の「歸山樵歌」は旅先から郷土の友人たちに送った詩を収録しています。

明治27(1894)年11月から29年9月まで、福島県尋常中学校(現在の安積高等学校)の教授嘱託として専ら漢文・倫理を担当。明治30(1897)年仙台へ移り、第二高等学校(現在の東北大学)の教授となり、明治34(1901)年8月まで教鞭をとりました。巻7から9の「猗々處吟稿」は第二高等学校教授時代の作です。

定年で教職を辞した後は、文人たちと交遊し、漢詩の大家として仰がれました。巻10の「草廬自適」は明治38年に仙台市道場小路(現在の東北大学片平キャンパスあたり)に住んでからの作です。

大正元(1912)年 8 月 20 日、筠軒は家族に看取られ 72 歳で生涯を終えました。『緑筠軒詩鈔』は息子の俳人・乙字が編集し、筠軒の没後、大正元(1912)年 10 月に清光堂から刊行されました。乙字は筠軒と何通も手紙をやり取りし、病父の枕元で校正などをして、この漢詩集を父の生前に刊行しようとしたが叶いませんでした。

当館に『緑筠軒詩鈔』の自筆稿本があることはあまり知られていないようです。多彩な側面を持つ大須賀筠軒の漢詩人としての一面を深く知ることができる本書が、広く研究・活用されることを期待しています。



<参考文献>

- ・渡邊千香「『緑筠軒詩鈔』に関する大須賀筠軒宛大須賀乙字書簡の考察」『いわき市教育文化事業団研究紀要 第 19 号』いわき市教育文化事業団/編・刊 2022.3
- ・中村宏「<特集・日本儒学史>大須賀筠軒の生涯一付「新体詩」とその作家」『東洋研究(26)』「東洋研究」編集委員会/編 大東文化大学東洋研究所 1972.3
- ・池澤一郎「大須賀筠軒と滝川君山との交遊—忘れられた日本近代文学—」『早稲田大学大学院文学研究科紀要 第 67 輯』早稲田大学大学院文学研究科/編・刊 2022.3
- ・『いわき市史 第 6 巻 文化』いわき市史編さん委員会/編 いわき市 1977.3
- ・『大須賀筠軒 大須賀筠軒詩碑建立記念誌』大須賀筠軒詩碑建立会 1987.8
- ・『犬棒録 続』宇野量介/著 宝文堂,白萩会 1987.3
- ・『大須賀筠軒とその時代 いわき市勿来関文学歴史館令和 3 年度第 3 回企画展』いわき市勿来関文学歴史館/編 いわき市勿来関文学歴史館 2021.11
- ・『図書探訪 いわきの人物 歴史編』いわき総合図書館/編・刊 [2013.1]
- ・『安中安高百年史』安積高等学校百年史編纂委員会/編 福島県立安積高等学校創立百周年記念事業実行委員会,福島県立安積高等学校 1984

(地域資料チーム 渡部玖美)

<大須賀筠軒著作・福島県立図書館所蔵目録>

※影印は○、翻刻は■

タイトル	編著者名	出版者名	出版年	請求記号
赤井嶽志	吉田軍蔵／編	山崎活版所	1903.9	L185/Y1/1
……大須賀筠軒／著「精山志料」収録				
奥羽史料 第一編	香雪積舎／[編]	香雪精舎	1889.1	L210.1/O3/1
……大須賀履／著「謁義経詞」収録				
奥羽史料 初編合本之貳	佐澤廣胖／編	香雪精舎	1889	L210.1/O5/2
……大須賀筠軒／著「倉谷鹿山」収録				
○いわき史料集成 第1冊	いわき史料集成刊行会／編	いわき史料集成刊行会	1987.2	L218/I13/1
……「美術展覧会出品目録」(出品者に筠軒あり)、大須賀筠軒／著「美術漫評」収録				
○いわき史料集成 第5冊	いわき史料集成刊行会／編	いわき史料集成刊行会	1992.10	L218/I13/5
……大須賀筠軒／著「磐城志料稿本」(静嘉堂文庫蔵)収録				
磐城史料 上・下	大須賀次郎	清光堂	1912	L218/O1/1-
磐城史料	大須賀次郎		[出版年不明]	L218/O1/3-
……CD-ROM 版『磐城史料稿本』【CS218/O1/1-】、○影印版『磐城史料』(磐城史料稿本刊行会 1974)【L218/O1/2】、■翻刻版『磐城史料稿本』(ヨークベニマル 1994)【L218/O1/4】				
磐城郡村誌	大須賀次郎／編	福島県	1878.1 稿成[写]	L291.8/F1/1-
……CD-ROM 版【CS291.8/I1/1-】				
■磐城誌料歳時民俗記	大須賀筠軒	歴史春秋出版	2003.3	L382/O5/1
……『日本庶民生活史料集成 第9巻 風俗』にも収録あり				
■諸国叢書 第3輯		成城大学民俗学研究所	1986.3	L388/O4/1
……大須賀筠軒／著「焔取録」収録				
■磐城物産志	大須賀筠軒	雄峰舎	2006.7	L602/O2/1
……稿本(国文学研究資料館蔵)の○影印版は『大須賀筠軒 大須賀筠軒詩碑建立記念誌』【L289/O30/1】所収				
美術漫評	大須賀次郎	香雪精舎	1886	L704/O1/1
■磐城技藝家小傳	大須賀筠軒	纂修堂	2009.9	L750/O1/1
緑筠軒詩鈔	大須賀次郎	大須賀績	1926.10	L919.6/O1/
……稿本は巻二～十【L919.6/O1/1-】、刊本は一～三【L919.6/O1/2-】				
舟門小誌	大須賀履子泰	大須賀次郎	[出版年不明]	L919.6/O1/3
■苗湖分溝八回横巻 安藤脩重翁碑	大須賀筠軒／詩・画	安積国造神社	2009.3	L919.6/O4/1
……「苗湖分溝八回横巻」(岡鹿門／詩, 大須賀筠軒／詩画)と「安藤脩重翁碑」(岡鹿門／撰文)を翻刻、注釈と現代語訳を付けたもの				